

結婚・出産が女性医師の職業満足度へ与える影響 — 2大学医学部同窓会調査より —

【論文要旨：第42巻 医学教育雑誌 第4号 平成23年】

目的：女性医師は増加の一途をたどっているが、我が国では従前より女性医師の継続的就労を阻む最大の因子として結婚・出産が指摘されてきました。現実的に仕事を優先させるために結婚をしない、あるいは出産をしない、家族計画をしているという意見は私立医科大学調査の女性医師の声の中でも紹介させていただいているとおりです。このため、若い世代では仕事と家庭を両立させることに不安を持っていることが考えられ、より仕事に関して消極的になっていることが先行研究（Nomura, et al. Academic Medicine 2010）より示唆されています。そこで本研究では結婚・出産が女性医師の職業満足度へ与える影響について検討しました。

方法：2つの私立医科大学同窓会に所属する女性医師を対象とした調査（A大学646名、B大学316名）を用いて探索的研究を行いました。回収率はA大学38%、B大学71%でした。医師という職業を選択して満足している＝1、満足していない＝0をアウトカムとし、婚姻の有無、卒後年数、診療科、就労形態、大学の効果などの影響をロジスティック分析にて検討しました。

結果：「医師という職業を選択したことについて満足しているか」を尋ねたところ、「満足している」と回答した女性医師は400名（85%）でした。既婚者は348名（74%）であり、うち280名（80%）は出産経験があり、259名

（77%）が医師と婚姻していました。女性医師の職業満足度に正の関連を認めた因子は、全女性医師では“未婚に比し既婚であること”、既婚女性医師では、“出産経験”でした。

結論：本研究結果より、“結婚・出産”は女性医師において、キャリア形成の障害になるよりむしろ、医師の職業に対する満足度を上げることでプラスの効果を持つことが示唆された。

なぜ、結婚や出産が女性医師の満足度をあげるのか

既婚者や出産経験者で満足度が高くなる理由には、結婚や出産により家族から、仕事に対する理解や支援を受けやすくなる（ソーシャルサポート）、結婚や出産による経験が仕事に生かされることなどが考えられます。我が国では小児科や産婦人科など医師不足の深刻な診療科を専攻する女性医師が少なくなく、自身の経験は診療能力に対する自信向上に寄与することが推測されます。さらに、このような診療科では患者、あるいは患児の両親とのコミュニケーション能力が大変重要です。医師以外の母親や妻といった社会の別の役割を担うことは医療以外の社会経験を学ぶよい機会であり、こうした経験が診療上、患者やその家族とのコミュニケーションに大きく貢献することが考えられます。

医師患者関係で知られる米国の研究者Roterは、女性医師は患者の社会心理的な側面に配慮しカウンセリング技能により関心を持つ傾向にあることを指摘しています。“結婚・出産は女性医師のキャリア形成に対し最大の障害である”という認識は、女性医師の割合が日本に比べて高い欧米諸国においてさえ同様です。2010年のAcademic Medicine米国医学教育雑誌の掲載論文によれば、「出産や育児をキャリアが中断される脅威と感じている女性医師は非常に多く、研修期間を避けて出産計画を立てる者も少なくない」といいます。一方、米国の内科専門医調査では、女性医師が子供を持つことは医師満足度を上げることと関係していると報告、本研究結果と同様に“結婚・出産は医師として働くことへプラスの効果を生む可能性”を示唆しています。その理由として米国の内科専門医調査は、「母親・医師・妻等の複数の社会的役割を演ずることでストレスを緩和し、医師としての満足度を上げる可能性」を指摘しています。我が国では、昨今の医師不足を背景に、医師を取り巻く労働環境が劣悪化しており、女性医師を取り巻く状況は過酷です。我々が行った研修医調査では、男女ともに半数%が「仕事も家庭もどちらも大切である」としたうえでさらに3割が「どちらかと言えば仕事よりも家庭が大切」と回答しており、男性3割の「家庭よりも仕事を重視する」といった回答パターンとことなっていることが知られています。この背景には、女性医師を取り巻く様々な就労問題について若い世代に不安がある可能性が否定できません。2大学同窓会を用いた本研究では、結婚や出産の経験と医師の高い職業満足度との間に正の関連があることが明らかとされ、医師として働くことにおいて「結婚・出産」はプラスに作用する可能性が示唆されました。満足度が高ければ女性医師の継続就労にポジティブな効果を与えることが期待されます。よって本研究結果は若い世代へ“結婚・出産はキャリア形成の妨げにはならない”という肯定的なメッセージを発信することが期待されます。若い医師のみなさん、結婚も仕事もあきらめず、自分自身ためのキャリア形成を目指してください。